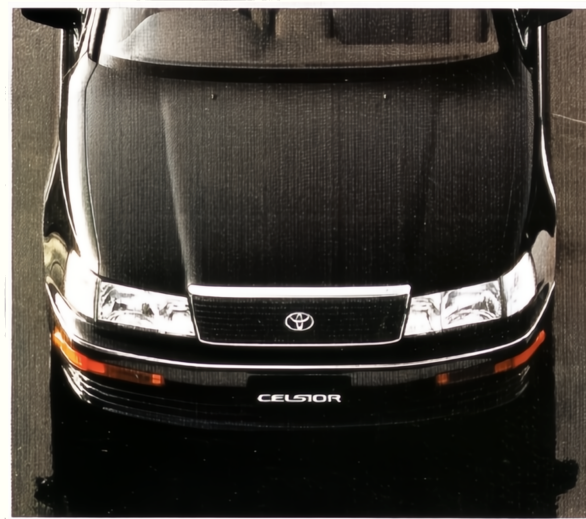




想像を超えた高級車をつくりたい。

完全への挑戦は、トップのその言葉から始まった。

開発コードは、F。開発プロジェクト、FQ委員会。一切の既成概念から離れるため乗用車の開発としては異例の、この委員会は招集された。技術、生産技術、そして工場。3つの部門が一体となった密な話し合いが続く。そこから生まれた性能・品質・精度の水準の高さも、また、異例であった。

セルシオへ与えられた第一の課題。

それはスタッフの間で“Yet”の思想と呼ばれた。

高級車とは“最高の性能・機能”、そして“人間に対する最高の温かさ・気品”を合わせもつべきだと考えた。フォルムはエレガントかつ空力に優れるべきだ。エンジンは高出力かつ高効率であるべきだ…。 “なおかつ”という言葉を英訳して“Yet”。スタッフたちはこの考え方をYetの思想と呼んだ。

“源流対策”。開発プロジェクトは

完璧を期すために、あえて困難な方法論をとった。

その思想を貫くための基本方針、「源流対策」。聞き慣れない言葉だが、意味するところは明快である。源流に立ち返り、問題を解決する。例えば、静粛性を高めるためには音の発生源であるエンジンやシャーシーを見直していくことだ。その結果、すべては0から設計されることになった。

試作車の台数だけでも実に450台。

いま、セルシオがやり残したことは、おそらく、ない。

携わったエンジニアの数1400人、そして試作車の台数450台。車重がわずか10g増加すること、対策が練られた。エンジンルームの美しさにまでこだわった。しかし、それだけのことはあった。ここまでの風格と性能を手にしたのだから。現時点でセルシオがやり残したことは、おそらく、ない。

高級車の新しい世界基準。





豊かに人を包み込む包容力。セルシオの室内の隅々には、機能と人間の信頼関係をより密にする温かさが満ちている。例えば、計器盤のスイッチ配置に、エアコンの音に、さらにはメーターの針にいたるまで。マシンの冷たさから遠く離れたマシン。その境地にここまで近づいた一台は稀である。



C仕様の計器盤 本車仕様はオプション。写真は機能説明のために各ランプを点灯したものです。実際の走行状態を示すものではありません。

テクノロジーは、それ自身をアピールするために取り入れられるものではない。逆に、最新機構が働いていることを感じさせないほどに近づける室内こそが望ましい。シンプルで、さりげなく、しかし、温かさにあふれた品格と心地よさを秘める。技術は、セルシオで快適さに昇華された。



C仕様の室内 本車仕様はオプション。写真は機能説明のために各ランプを点灯したものです。実際の走行状態を示すものではありません。

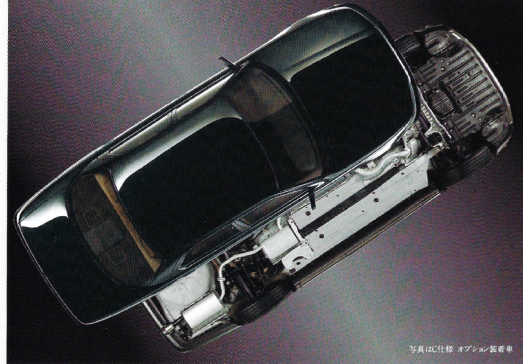


写真: 8位仕様 オプティム 競走車

プレステージの極みへ。

優雅な造形と比類ない空力特性が両立する。機能に結びついた美しさ。おそらく、この理想に最も近づいたクルマがセルシオである。Cd値=0.29。アンダーボデーまで気を遣い、床下全体をフラット化、さらに大型のエンジンアンダーカバーなどにより空気の流れを整えた。しかし、セルシオは空力優先につくられたクルマのような非人間的フォルムとは無縁である。永続性のあるエレガントなスタイルから空力性能に優れた走りか生まれる。いつまでも変わらない美しさを保つ。セルシオは、美しさ・高品質を維持することにも妥協をしない。従来より工程数を増やしたボデー塗装、色褪せが極端に少ない異なった素材でも均一に退色する室内、そして錆対策…。実に96項目のレベルアップが図られた。シルエツトだけでなく、クオリティにも永続性を求めた。**最上級の品格。ウォールナットパネル。**シフトレバー部のパネル、アームレストスイッチベースには最高級素材ウォールナットを使用した。模様まで揃った木目の風合いと、クラフトマンが磨き上げたフィニッシュ。そこに室内のラグジュアリー感が高まる。また、トリムなどの表面には革のしなやかさを表わした新素材を採用。

細部までの徹底したこだわりが、偉大なプレステージを生み出す。見えないところへの細心の心配りは、高級車を所有することの喜びを高める。セルシオの場合、エンジンルーム内の美しさも自負したい。フードを開けるとメカニズムや補器類はスクエアにレイアウトされている。例を挙げるとエアクリナー、クールエアダクト、バッテリー…。ひとつひとつの意匠は整えられ、美しく構成された。また、ルーム内の風の流れも十分検討されている。さらにドアまわり。世界が目にする美しさがある。セルシオはドアを開けてもピラーの継ぎ目が一切見えない。サイドパネルやピラーに使用する異なった素材をレーザー溶接で接合、その後プレス成形を行なった。その仕上がりは、まるで一枚の銅板からつくられたような美しさをもつ。サイドパネルという大きな部分でこの手法を使ったのは画期的なこと。車両の軽量化にも役立つ。**バックウインドウモールには、ただ1か所の継ぎ目しかない。**空気の流れも能率よくなり、雨滴はモールの両側をスムーズに流れる。**充実のツールボックス。**ラゲッジルーム内も徹底して整然と整理されている。ツールボックスはルーム内の側面に収納される。



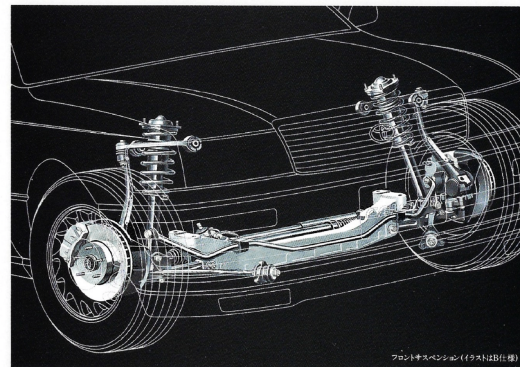
パフォーマンスの理想へ。

トヨタ最高峰。レーザーαV8フォーカム32。頂点を走るための源流対策のメスは、エンジンでも妥協をしない。例えば、ベアリング部は高精度加工後、1μm単位まで測定してクリアランスを決めている。クーリングファンにも世界初電子制御油圧駆動式を導入した。4ℓ・V8・4カム・32バルブ。高性能・高効率・静粛性、そのすべてのレベルは限りなく理想に近づくまで結実した。**知性をもったオートマチック。ECT-i**^(トヨタ独自の電子制御式2ウェイOD、特許出願中)^(トヨタ・コンベア・システム)。スムーズで意のままの走行感を実現してこそ、高級車の走りの質は、極まる。世界トップのリニアな加速感を目指して開発されたECT-i^(電子制御式2ウェイOD)。TCCS^(トヨタ・コントロール・システム)がエンジンとオートマチックを総合制御、変速時のエンジントルクを一時的に低下させ、滑らかな係合を促す。8気筒エンジンの豊かな出力は、世界最高レベルのオートマチックを得て、絹の走りへと昇華する。**前例のないスーパーバランス。振動・騒音の源を断つ。**高速での真の静粛性・低振動を達成するため、すべての駆動系・高精度、高バランス化が図られた。エンジンからデファレンシャルまでが角度0°でジョイントされたのもその一例。こもり音も低減される。

足の基本構造は、4輪ダブルウィッシュボーン。設計自由度がきわめて高く、ジオメトリの設定を徹底的に煮詰めることができる。事実、初期段階からの執拗な解析や実車でのテストが繰り返され、前輪・後輪とも操縦安定性、直進性、乗り心地が最高水準でバランス。まさに、世界に自負できる完成度をもった。**至上の乗り心地。ホイールストローク感応電子制御エアサスペンション**^(C1仕様)。乗り心地の理想を追い求めていくとサスペンションはここに到達する。コイルに代えて空気にスプリング機能をもたせ電子制御。路面の突起を通過することに、きめ細かく柔らかさ・固さを制御。フラットな乗り心地を走りの瞬間、瞬間に確保する。**ピエゾTEMS**^(トヨタ・エレクトロニック・モジュール・レーテッド・サスペンション)。新搭載^(8位仕様)。前後のショックアブソーバーの減衰力をマイコンが制御。クルマの永遠の課題であった操縦安定性と乗り心地の両立は、このシステムでひとつの結論を見る。操縦安定性を確保するため通常は減衰力ハードで走行、路面の突起を乗り越す際、瞬時にソフトに切り替え、乗り心地を保つ。状況に応じた切り替えを俊敏に行なうためセンサーなどが世界で初めて応答性の高いピエゾ素子を採用。究極のTEMS。



写真: 8位仕様 オプティム 競走車

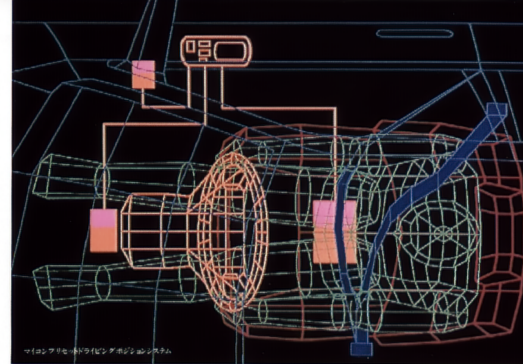


フロントサスペンション (C150 8位仕様)

豊かに人を包み込む包容力。セルシオの室内の隅々には、機能と人間の信頼関係をより密にする温かさが満ちている。例えば、計器盤のスイッチ配置に、エアコンの音に、さらにはメーターの針にいたるまで。マシンの冷たさから遠く離れたマシン。その境地にここまで近づいた一台は稀である。



C仕様の計器盤。本車仕様はオプション。写真は機能説明のために各ランプを点灯したもので、実際の点灯状態を示すものではありません。



ハイテクノロジーの夢へ。

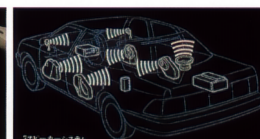
マイコンプリセットドライビングポジションシステム(C仕様)。シート、ステアリング、ドアミラーなどの2名分のベスト位置までを記憶、ワンタッチで再生できる画期的システム。ヘッドレスト上下も調整できる10ウェイパワーシート、ステアリングのチルト・テレスコピック位置、ショルダーベルトアンカーの上下移動、ドアミラーの上下・左右の向き。以上のすべての位置を記憶・再現する。複雑な操作を繰り返すことなく、高機能を自由に享受できる。**セルシオスーパーライブサウンドシステム**。ひと部屋のオーディオルームを創り上げるように、ていねいに開発、徹底したチューニングを施したシステム。全席における高音質の実現を目指し7スピーカーシステムを採用。さらに本革仕様のシートかファブリック仕様のシートかによって専用のイコライザーを設定した。また、ディスク6枚まで連続演奏できるCDオートチェンジャー、高音質、扱いやすさが特徴のDAT(デジタルオーディオテープ)など最先端をゆくサウンドも十分堪能することができる。

※詳細な設定については、販売店までおたずねください。

オブテイトロンメーター。クルマに関するすべての情報がそこに示される以上、メーターは、まず視認性を第一に考えなくてはならない。セルシオのための新アナログメーター、オブテイトロンメーター。スイッチをONするとまず針自身が白く光る。そして文字板も柔らかい白色に発光する。クリアで良好な視認性をもつ。**スペースビジョンウォーニング**。ウォーニング・インジケーター類は、メーターの中央に虚像によって、浮かび上がるように示される。好位置に高コントラスト表示で、素晴らしい視認性を誇る。**フルエリアワイピングシステム**。世界初のワイパーシステム。Hiモード時には払拭角を変え、より効率的に拭けるようになった。Loモードでは走行時・停車時で自動的に連続動作・間欠作動の切り替えを行なう。通常時、ワイパーは完全に格納されるフルコンシールドタイプ。また、油膜取りウォッシャーも新しく採用。



オブテイトロンメーターとスペースビジョンウォーニング。写真は機能説明のために各ランプを点灯したもので、実際の点灯状態を示すものではありません。



超音波雨滴除去装置付ドアミラー(C仕様・本仕様)。超音波の振動とヒーターの熱で付着した水滴を瞬時に除去。



※本セットはAM/FMラジオ・CD・オートチェンジャー・DAT。



C仕様 ダークグリーンM.L.O.トーンニングG(9K4)のボディカラー、本革仕度はオプション

C-TYPE

エアサスペンションの至上の走り、極められた豊かさ。
セルシオ、そのラグジュアリーの最高峰。



C仕様の計器盤1室内 本革仕度はオプション 写真は機能説明のために各ランプを点灯したものです、実際の走行状態を示すものではありません。

ピエゾTEMSの自在の走り、あふれる存在感。
セルシオ、そのスポーティな頂点。

B-TYPE



B仕様の計器盤1室内 写真は機能説明のために各ランプを点灯したものです、実際の走行状態を示すものではありません。



D仕様 ガゼーカラーIIブルー(インジェアルレーザ(メタリック)トーンニングG(172)サトウシロF電動ハッチバックはオプション



A仕様 ガゼーカラーIIブルー(メタリック)トーンニングG(180)

A-TYPE

超高級車の走り・風格・美しさ。
ここには、すべてがある。
セルシオ、その大いなる原点。



A仕様の計器盤1室内 写真は機能説明のために各ランプを点灯したものです、実際の走行状態を示すものではありません。

